

令和3年度札幌白石区防火委員会

119ニュース特別号〈防災研修会〉

発行：令和4年3月

この研修会は令和4年1月28日に白石区民ホールにて行う予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止し、紙上での防災研修会といたしました。今回の講師は、危機管理対策室危機管理対策部 地域防災担当係長 齋藤 弘幸様です

それでは、齋藤講師のご経験談をお読みいただきたいと思います。

「ウィズコロナ時代における防災・危機への備え」(鹿児島市での経験)

【自己紹介】

札幌市危機管理対策室の齋藤と申します。この度、令和3年度札幌白石区防火委員会・防災研修会の開催にあたり、研修講師を仰せつかりましたが、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況に鑑み、誠に残念ではございますが、書面での記事の紹介に代えさせていただきます。

私は、平成31年度から2年間、鹿児島市へ派遣されており、札幌市から2代目の派遣者として南国の鹿児島市で防災・危機管理体制を学んでまいりました。

鹿児島市では、国土強靱化計画や国民保護計画などの各計画の管理、各種訓練における炊き出し訓練の企画立案、防災ラジオの整備、津波災害に係る防災訓練や津波避難ビルの指定などを担当してきました。また、大雨・洪水警報等が発表された際の対応のため、夜間・休日でも出勤し避難指示の発令に従事するなど、自然災害の少ない札幌市ではなかなかない貴重な経験を積んできました。

【鹿児島市の印象】

鹿児島に行き最初に驚いたのは、何と云っても噴煙立ち上る桜島火山が目の前に堂々と君臨しているのと、市街地にまで火山灰が降り注ぐことです。



日常的に3,000m級の噴煙が上がる

距離にして市街地から約4kmの場所に桜島があるのですが、札幌市で例えてみると札幌市役所から地下鉄白石駅までの距離で活火山が毎日のように噴煙を上げているという状況になります。しかも、桜島にはいまでも約4,000人もの住民が住んでおり、札幌市では想像してもピンとこないような環境で、自然とともに共存しながら力強く生活している方々がいました。北国生まれの私から見ると、冬に積雪がない環境を含めて、見るもの全てが新鮮であったのと同時に、異国の地でとても感銘を受けたのをいまでも覚えています。



市街地に降り注いだ火山灰



「克灰袋」と呼ばれる火山灰回収袋（無料）

【鹿児島市での業務】

鹿児島市では、国土強靱化計画や国民保護計画などの各計画の管理、各種訓練における炊き出し訓練の企画立案、防災ラジオの整備、津波災害に係る防災訓練や津波避難ビルの指定などを担当してきました。また、大雨・洪水警報等が発表された際の対応のため、夜間・休日でも出勤し避難指示の発令に従事するなど、自然災害の少ない札幌市ではなかなかない貴重な経験を積んできました。

（鹿児島市での防災・危機への備え）

【新型コロナウイルス感染症との闘い】

鹿児島市は、新型コロナウイルス感染症の感染者発生が、全国でも最後の方でした。

令和2年1月に、友好都市の中国湖南省長沙市へ災害備蓄である不織布マスクや防護服を提供するなど、すでに感染拡大が進み切迫していた中国へ物的援助をするとともに、鹿児島県の感染症対策の動向を踏まえながら、来たる感染拡大に向けて事前に対策を検討していました。鹿児島市の体制としては、健康福祉局（札幌市でいう保健福祉局）が中心となって感染症対策の指揮を執り、危機管理局は公共施設の開館や閉館の判断をマネジメントする役割を担っており、私自身もその役割の中で対策に従事してきたところです。

しばらくは、感染者の発生もなく平和な日々を過ごせましたが、令和2年7月に市内のショーパブで発生したクラスターをきっかけに、一気に鹿児島市内及び県内全域へ感染が広がっていき、市民が未知のウイルスに不安を抱いていました。それと同時に、非常に心配していたのは、災害発生時における避難所の感染症対策でした。

鹿児島市は、毎年のように風水害に見舞われる地域柄、必ずと言っていいくらい、年に十数回は避難指示などの避難情報が発令されます。そういったこともあり、令和2年の出水期（6月から10月末まで）を前に、新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営マニュアルの見直しを行い、毎年5月に実施している市長の防災点検で、避難所の受入れ手順の確認などを行い万全の体制で臨みました。



感染症対策をとった避難所の
受付要領のシミュレーション

市民に適切な避難行動を促すためには、避難所に安心して来てもらう環境を整えるのが重要な課題でした。避難所への感染症対策資機材の整備、避難所開設担当職員の研修、地域住民への啓発活動など、今では新型コロナウイルス感染症対策が当たり前の時代になりましたが、当時は市民の理解を得るための啓発活動にとっても苦労しました。

コロナ禍における防災活動に求められることは、“集まらない防災”と“安心して避難できる体制”だと私は考えます。これは、全国どこの市町村でも同じことが言えると思いますが、防災部局の職員は非常に頭を悩ませております。感染症が終息すれば、これらの問題は解決しますが、新たな変異株が出てくるたびに様々な課題が浮上し、解決策を講じていかなければなりません。新規感染者の発生が落ち着く周期を見極めて、事業を計画していくというやり方もありますが、完全な終息がなかなか見られない状況に鑑みると、一時期「ウィズコロナ」という言葉が出てきたように、オンライン配信を活用した研修会や感染症対策を十分に図った上での少人数による研修会の実施、感染症対策を盛り込んだ周知動画の作成など、感染症のリスクを視野に入れながら共存・共生していくという価値観を持つことも、必要な時代になってきたのかも知れません。

防災意識の醸成や知識の習得につながる防災の普及啓発資料の作成・配布など、地域住民が集まらなくても取り組むことができる防災活動を考慮し、工夫を凝らして支援を展開していくことが行政には求められています。地域コミュニティにおける自主防災活

動も、そういった観点を踏まえて取り組んでいく必要があると思います。

一方で、災害時に安心して避難できる体制を確立するために、札幌市では、感染症対策を考慮した避難所における体制の普及啓発が喫緊の課題であるとのことで、感染症対策を講じながら計画的に避難場所運営研修を実施しており、令和3年度には50箇所、令和4年度には60箇所を実施する計画を進めています。

地域コミュニティで取り組む自主防災活動のほかに、災害時における避難所の体制は、市民の皆さんの避難生活に直結するととても重要なものです。

感染症対策を踏まえた避難所の開設・運営をイメージした動画を、札幌市公式ホームページで公開していますので、ぜひ一度ご覧いただき、自分と大切な人の命を守るための、適切な避難行動につなげていただきたいと思います。

<避難所の開設・運営イメージ動画>

<https://www.city.sapporo.jp/kikikanri/imagemovie.html>



【まとめ】

札幌市と鹿児島市との人事交流事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で人員交代が難しくなり、残念ながら2期4年間で一旦の区切りをみました。この4年間で、私も前任者も高度な情報分析や避難情報の発令に至るまでのプロセスなどを経験することができました。

また、そう遠くない将来に大噴火を起こすかも知れないと言われている、桜島の火山対策にも携わり、いざという時には、それらの経験を活かし札幌市の災害対応にあたりたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症との闘いも続いていくかも知れませんが、札幌市の地域防災力向上のため、様々な形で普及啓発に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止等により、防火委員の皆様にお集まりいただく機会は困難になりましたが、機会を捉えて地域の皆様にもいろいろ、白石区の防火について情報発信を行ってまいりますので、皆様のご理解とご協力のほど何卒宜しくお願い致します。

【札幌白石区防火委員会事務局】